

介護事業者 事例紹介

「外国人材採用」どう感じていますか？



「何が起きるか分からない」

不安だらけだった私たちが
なぜ踏み出せたのか

－ 最新事例から考える外国人材採用 －

事例のメインとなる事業者

- 岡崎市内
- 中規模事業者
- 2025年2月：外国人材受け入れ開始
- 現在：ミャンマー国籍2名就労中
- 2026年4月：ネパール国籍2名受入予定

当時、外国人材採用前に感じていた不安

- 未知への不安（何が起きるか分からない）
- 言語や文化の壁への懸念
- 現場が混乱しないか
- 本当に戦力になるのか
- 利用者・家族の反応が怖い

これらは「経験した」不安ではなく「導入前の想像」だった

それでも一歩踏み出したきっかけ

やらないことの方が大きくなった

それでも一歩踏み出したきっかけ

意思決定の背景

- 将来的な日本人労働力減少への強い危機感
- 採用難が今後さらに深刻になるという認識
- 「迷っている間に良い人材は他社に決まる」という判断

それでも一歩踏み出したきっかけ

決断できた“条件”

- 仲介・支援担当者による強力なバックアップの約束
- 困ったときに相談できる体制が明確だった
- 良い人材がいれば即断即決する姿勢

導入時の工夫

- 2名同時採用(精神的な支え)
- 業務を一気に任せない
- 現場責任者が事前に準備
- 困った時の相談体制を明確に
- ゆっくり話す
- 言葉を統一する工夫

導入後に起きた予想外なこと

- 日本語をゆっくり話すこと
- 職場で使う言葉を統一する

外国人スタッフのために始めた工夫が、

現場全体の質を底上げ

利用者の反応

利用者(とその家族)の反応

- 「孫のようだ」と好意的
- 外国人であることへの拒否反応は特になし

想像していた「クレーム」は、起きなかった

職員の反応

日本語・人柄への評価

- 非常に真面目
- 勤務態度が良好
- 笑顔が多く、職場の雰囲気明るくなった

課題はもちろん、ありました

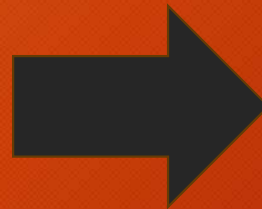
- 教え方の工夫が必要だった
- 日本語サポートは重要だった
- 最初は時間がかかった

しかし、「**致命的な失敗**」ではなかった

不安は、こう変わった

採用前の不安

- 未知で怖い
- 日本語が通じない
- 現場が混乱する
- コストが高そう



採用後の実感

- 会えば不安は消えた
- 工夫すれば十分通じる
- むしろ整理された
- 日本人採用と大差なし

事業者さまからのメッセージ

経営層へ

「案ずるより産むが易し。まずは踏み出すこと」

現場へ

「不安は、会えば消える」

外国人材採用は、不安がゼロになってから始めるものではありません
不安の正体が“想像”だと分かったとき、初めて一歩が踏み出せる

この後は、実際に日本で働く
ことを希望し、日本語を学ん
でいる、ネパールの方々とオ
ンラインで現地と繋がります